

# 令和 2 年度事業報告書 – デイサービスセンター いこい・ほほえみ –

テーマ：自立した生活が送れるように、より良いチームケアの提供と地域支援体制の強化を図る

サブテーマ：認知症があっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、チームケアを強化する。

## 1. 認知症状を理解し、個別ケアを提供する

- ① コロナ感染予防に追われた一年ではあったが、ケアの中で得られた気づきを、チームミーティングにより情報を共有し、統一したケアに努めた。利用者の受入人数の制限や、ソーシャルディスタンスの必要からホールをいくつかに区切ったケアも、結果的に個別ケアの徹底につなげることができた。
- ② 利用者一人一人の「得意なこと」を見つけ、役割により自信や生きがいに繋がられるような個別の支援が提供できた。ご利用者一名に家族からのコロナ感染者が出たことで、極端に利用を制限した時期については、ケアマネや家族とこまめに連絡を取った。

## 2. 地域交流の継続

- ① コロナ感染予防により、開催が自粛され機会は減ったが、運営推進会議の報告において、コロナ禍でのいこい・ほほえみの活動内容や、デイでの感染予防法などを知ってもらうことができた。
- ② 家族の集い、「あいあい祭り」、法人の秋祭りはコロナ感染予防のため中止となった。家族との関わりが薄くならないよう、例年よりお便りや写真を多く持ち帰っていただき、デイでの利用者の様子が伝わるよう配慮した。特に、新規利用者に関しては、事前に家族が見学に来ることができなかつたため、初回利用後に本人の様子とデイの雰囲気分かるような写真を家族に渡し安心していただくことができた。

## 3. 働き方改革より魅力ある職場づくり

- ① 全員の PCR 検査の受検や勤務調整など、職員の負担は重かったが、職員間のコミュニケーションを密にすることで、離職者もなく一年を乗り切ることができた。
- ② 年 2 回、職員面談を行った。日々の悩みや思いを聞き、業務改善と労働環境の改善に努めた。

## 4. その他

- ① 白楽荘職員のコロナ陽性者発生に伴い、2日間デイサービスを休業した。その際、全利用者一人一人に電話連絡し、謝罪と説明を行った。新型コロナウイルス流行が始まってから家族に向けては、10回以上お知らせやお願いをしてきたため、発生時も大きな混乱なく家族や本人の理解が得られたのは良かった。
- ② 感染予防対策として、デイ内のテーブルにアクリルパーテーションを設置し、一席ずつ空けて座っていただき飛沫感染予防に努めた。リネンやカバーの交換頻度を増やした。送迎時の感染対策も行い、車内の消毒、ご利用者を乗せる前の検温や手指消毒を行い、感染症の持ち込みを予防できた。また、認知症のため理解力が乏しくマスクの着用が困難な利用者に対しては、他の方とは離れた場所で過ごしていただくなど対応した。
- ③ 職員内の緊急連絡網には清掃員が含まれていなかったが、法人内のコロナ陽性者発生に関する情報発信のため見直し、清掃員を含む職員全員に連絡が行き渡るようにしたことで、職員が安心して働けるよう配慮できた。また、コロナ流行初期に法人全体の部署別隔離を行った。初めは職員の理解が得られにくかったが、コロナ陽性者発生後には、感染症対策として功を奏し職員からも賛同を得られた。